

居宅介護支援 ケアプランセンター 足原のぞみ苑  
令和 3 年度 事業報告 (案)

1、 概況報告  
令和 4 年 3 月現在

利用者の状況

要支援 1 9 名  
要支援 2 20 名  
要介護 1 33 名  
要介護 2 16 名  
要介護 3 16 名  
要介護 4 5 名  
要介護 5 なし

計 99 名  
平均介護度 1.59

- ・ 事業所のケアプラン稼働率 80%以上を目標、センター全体での月額収入を 1,100,000 円に設定。  
→事業所稼働率は 72.5%、センター全体での月収入は月平均 109 万円となり目標達成は出来なかった。稼働率については、入院や入所となる事も定期的にあった事が大きい。加えて収入については単価の低い要支援認定の方が 3 割と多い事も要因。

事業計画について

- i 総合的なケアプランを作成する上で幅広い情報収集を行う為
  - ・ 各ケアマネが個別に目標設定し研修計画を作成。オンラインや実際に集まって行う研修等形態を選ばず定期的に参加する事が出来ている。週 1 回の定例会議は継続して開催、市の通知等事業所内で周知し事業所全体で情報共有を出来る様にした。

評価

- ・ 外部研修自体もオンライン開催含め徐々に開催される様になり参加する機会も増えてきている。研修に参加、幅広い知識や情報収集を行っていく事が出来た。

ii 利用者及びその家族に満足していただくケアプランを作成する為

- ・コロナウィルス感染状況や緊急事態宣言等を受け無理に訪問する事は避け電話で様子確認等柔軟に対応を行った。
- ・新規事業者等の情報収集についてもコロナウィルス感染症の影響で見学等出来ず書類や電話での聞き取り等情報収集を工夫した。

評価

- ・各ケアマネジャーが 24 時間電話を携帯する事で本人、介護者が営業時間外でも相談しやすい環境を作る事が出来た。また、職員の家族がコロナ陽性等となり出勤停止となった際も携帯電話を利用する事で継続して本人、家族とのコミュニケーションがとれる様にいていく事が出来ておりケアプランの実行に大きな問題は生じなかった。
- ・事業所の情報収集を行なう事で利用者がサービス利用を希望され開始する際には、複数の事業所を提示し選択してもらう事が出来た。

iii 地域の福祉相談窓口として地域住民に認識してもらう為

- ・去年同様コロナウィルス感染症の影響で校区の行事は中止が多く参加が出来ない事が多かったが夜間パトロールや町美化等の活動は再開出来てきた。
- ・台風や大雨時等避難所開設された際は、周辺市民センターを周り、福祉避難所として受け入れ態勢がある事を伝える事が出来た。

評価

- ・地域の方からのケース相談は定期的にいただく事が出来ている。今後も感染状況によるが出来る限り活動参加を行い地域の相談窓口としてのアピールを行っていききたい。

iv 働き方改革の推進

評価

- ・職員全員が 5 日の年休取得出来た。
- ・週 1 回の定例会議により困難ケース等全員で検討する事や場合によっては複数での訪問をする等抱え込みからのバーンアウト等防止する事が出来た。